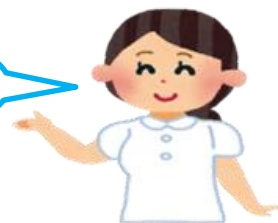


認知症について
様々な情報をお伝えします



おれんぢコラム

認知症看護 認定看護師 藤田和香子

今回は、昨年、私が最も感動した1冊をご紹介します。

ジャンルで言えば児童書。『ばあばは、だいじょうぶ』という絵本です。発売から瞬間にベストセラーとなり、今春には映画も公開されるのでご存知の方もいるでしょう。

私は、友人から紹介されるまで、認知症をテーマにした絵本があるなんて全く知りませんでした。それどころか、実際に読むまでは認知症のことを絵本でどれだけ表現できるのかと不信感さえあったほどです。

でも、いい意味で裏切られました。この絵本、最高に素晴らしいです。

絵本なので、当然、全編絵とひらがなのみ。数分で読めます。対象は小学校低学年だと思えますが、大人が読んで十分深い内容。認知症の人とその家族の想いが伝わってきて、何十回と読み、内容を熟知していても読むたびにジーンとしてしまいます。

～簡単なあらすじ～

小学生のつばさは、ばあばが大好き。毎日、学校から帰るとばあばの部屋に寄るのが習慣。いつも話を聴いてくれて慰めて励ましてくれる。どんな時もおつばさの味方。

そんなばあばが次第に変わり始める。つばさが大切にしていたものを失くしてしまったり、隣の家に迷惑をかけるようになっていたり。つばさはばあばが嫌いになり、ばあばの部屋に近づくことさえなくなっていく。そんなある日、ばあばがいなくなって……。

小難しい話は苦手という方、子ども向けの本をお探しの方にもおすすめです。

『ばあばは、だいじょうぶ』
楠 章子 作、いしいつとむ 絵
童心社
2016年12月20日刊行





認知症サポーター養成講座のご案内

認知症サポーターは、なにか特別なことをする人ではありません。認知症を正しく理解し、認知症のある人やその家族を温かく見守る応援者です。

認知症は、誰でもなる可能性がある病気です。他人事ではなく「自分の問題である」という認識を持つことが大切です。この機会に、あなたも認知症サポーターになりませんか？

当センターには講師がおりますので、5名以上の参加で講座を開催することができます。詳しくは、当センターまでお問い合わせ下さい。

介護、健康、医療、福祉 高齢者の総合相談窓口

地域包括支援センター

地域包括支援センターは、市町村が設置している相談窓口です。

高齢者とその家族、地域に暮らす方などなたでも利用できます。

保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士などの専門職員が配置されており、さまざまな相談に対応しています。例えば…

- ・介護、健康、医療、福祉、生活などの相談・支援
- ・認知症の相談・支援
- ・介護予防サービス計画の作成、サービス利用の連絡調整
- ・高齢者虐待の予防や対応、権利擁護（※1）のための情報収集・提供
- ・関係機関との連携や、介護支援専門員（ケアマネジャー）への助言

高齢者が住み慣れた地域で健やかに生活を送れるように、高齢者の生活を総合的に支えるのが地域包括支援センターの役割です。ご自宅への訪問も対応し、秘密は厳守されます。ご相談は、お住いの地域を担当する「地域包括支援センター」へお問い合わせください。

（※1）生活するうえで判断能力が不十分な人の権利と財産を守るしくみ

認知症認定看護師による 専門相談をおこなっています

毎週水曜日
9時～16時

※要予約

相談は無料です。

TEL:017-788-2988



受診を希望される方へ

予約時間

	月	火	水	木	金
9時	○	○	○	○	○
10時	○	○	○	○	○

あらかじめ、電話予約が必要です。
【認知症相談】017-788-2988

発行者

青森県立つくしが丘病院
認知症疾患医療センター運営チーム
〒038-0031
青森市大字三内字沢部353-92
(代表電話) 017-787-2121

認知症認定看護師とお話したい
とお伝えください。

